

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」について（報告の概要）

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」(以下「活用のためのガイドブック」という。)の概要

1 はじめに

活用のためのガイドブックとは…

○標準的なカリキュラム案を基にして、地域の実情や外国人の状況に応じた日本語教育プログラムを編成する際の①基本的な考え方、②作成手順、③教室活動の方法を解説したもの。

2 標準的なカリキュラム案における言語・言語習得の考え方について

○言語・言語習得に関する考え方について「言語について」「言語学習について」「教室活動について」「日本語教室から地域社会へ」の四つの観点から解説。

3 標準的なカリキュラム案の活用及び指導方法について

○標準的なカリキュラム案の活用及び指導方法のポイント
「地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫」「専門家・地域住民との協働」
「行動・体験中心の活動」「対話による相互理解の促進」

4 日本語教育プログラムの作成手順

○標準的なカリキュラム案を基にした日本語教育プログラムの作成手順を説明。
「1. 域内の外国人の状況・ニーズ、地域のリソース等の把握」
「2. 日本語教室の目的や設置場所等についての検討」
「3. 具体的な日本語教育プログラムの作成」
⇒各地域の実情に応じた日本語教育の実施&プログラムの見直し。

5 日本語教育プログラムの具体例

○各地域において日本語教育プログラムを検討する際、具体的なイメージを持ちやすいよう「4 日本語教育プログラムの作成手順」に基づき、日本語教育プログラムの具体例を3例（日系人就労者、国際結婚で来日した者、技能実習生）提示。

6 活動方法の例の具体的内容

○生活場面に密着した活動方法の具体例として、①ロールプレイや実体験などの課題解決型の学習活動、②文章の大意をつかむスキミングや必要な情報を拾い読みするスキニングなど言語的な技能を向上させるための練習方法を提示。

7 参考資料

○日本語教育プログラムを作成する際や、日本語学習者が自ら必要な生活上の行為を選択する際の資料として、標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例の一覧を日本語のほか、中国語、英語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語で掲載。